

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬 写真・後藤、北村
山行番. NO. 2031	
日時 2023年08月19日(土)晴～雨・雷～晴	
山域 小金沢連峰・大谷ヶ丸(1644m) 曲り沢～北峰～西尾根	
コース 長泉町 6:00—景德院 7:56 (H=約 720m) —曲沢入溪点 (H=約 1000m) 8:50 —昼食 12:00—沢から尾根着 13:00—大谷ヶ丸 13:49—北峰 14:06—西尾根—景德院 17:05—砥草(とくさ) 庵(食事)—長泉町 21:32	
標高差 上・下り 景德院約 720m～大谷ヶ丸 1644m=約 924m+西尾根上り分	
難易度 非常に困難 困難 <b>レやや困難(西尾根)</b> 普通 やや易しい 易しい	
<b>猛暑の沢登りと雷雨のバリエーション</b>	
参加者 後藤、加藤、北村、山田(4名)	

今回の山行は大谷ヶ丸。昨年12月に行っているので2回目。しかし、今回は沢登りがある。ルートも前回と違うところから入山する。

私は沢登りがはじめて。沢靴は持っていたが、使ったことがない。沢登りとは、沢を沢靴で登って、帰りは沢脇の道をそのまま帰って来る。そんな水遊びの延長のイメージだった。しかし、準備物の確認をしていると、登山靴も必要であることがわかる。



景德院駐車場



景德院

確かに昨年行った大谷ヶ丸はそんなにやさしい山ではなかった。登山の装備と沢登りの装備が必要なのか、、、これはタイヘン！行き帰りのイメージがつかないまま当日を迎えた。

入山地点の景德院については朝8時ごろ。Gさんから「今日は地図読みを勉強します」という今日の課題が出され、アプリを使わずに2万5千分の1の地図を見ながら曲り沢の入り口を探す。

地図、コンパス、高度計で現在地を把握して、ルートを外さずに目的地に行くというのは登山の基本。そんな学習機会を作ってもらえるだけでもありがたい。1時間ほど歩いたところで、曲沢の入溪点に到着。沢靴に履き替える。そして沢に入る。





最初のナメ

冷たーい！が、思ったほどではない。外が暑いので、むしろ気持ちいい。沢靴も靴底がフェルトの生地で大丈夫かと思ったが、全然滑らない。これなら安心して動ける。

Kさんから沢の服装はツルツルした生地のものがいいし、長袖、長ズボンがいいと教えてもらったが、実際に沢に入ってよくわかった。

今回の曲り沢は沢の初級中の初級らしいが、沢登りは水流に逆らって進むので、水量が多いところだと水圧が強い。岩場を登るのに力が必要だし、水の抵抗が少ない方が登りやすい。そして、必死に進むので、気づけば肘や膝にアザがあるという状態だった。



行きに「カエル」に会う



地図を読む





じゃぶじゃぶ（撮影・北村）

普段は「沢に落ちないように」「水に濡れないように」と思っているのに、沢登りとなると、「水に濡れに行く」「沢の深いところにあえて突っ込む」ので、日頃のいろんな制約から開放されたようで、楽しい。水が流れる轟音の中なので、「わー」とか「おー」と叫んでも、かき消される。ストレス発散にはもってこいだ。

沢の途中で、後から来た男性の二人組が追いついてきた。一人の人は沢靴の上にワラジを履いている。珍しいので、話しかけたら、ワラジをはくことで滑りにくくなるそうだ。

どこで買ったんですかと聞いたら、お祭り道具などを扱っているネットサイトで購入したとのことだった。



ワラジのオヤジ



丸木渡り

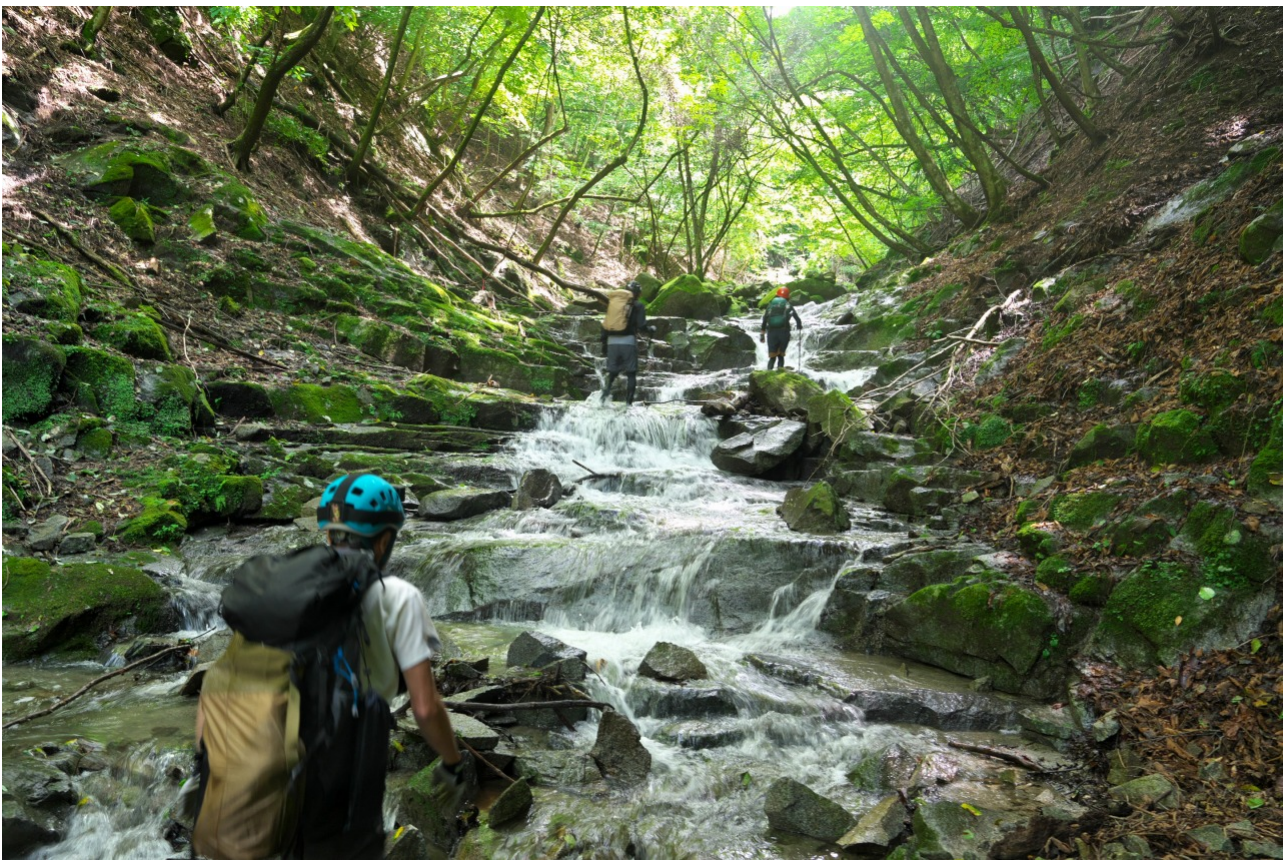


フェルト底の沢靴も、使っているうちにだんだんすべりやすくなるそうなので、それを補強するにもワラジはいいのだろう。

楽しくて沢の上流に向かって夢中になって歩いていたが、時折、時間と現在地を確認すると、体感の疲れほど、前に進んでいない。標高もかせげていない。結局、沢を抜け出せないまま、沢の上流で12時になる。

お腹が空いたので、ここで昼食をとる。約4時間行動しても山頂に到達しないというのは、日帰りだと珍しい。30分ほどで昼休憩を切り上げて、沢から尾根に出る行程を進む。

やっと尾根が見えた。しかし最後に尾根にあがるところが急登でかなりきつい。ハアハア言って踏ん張ってなんとか尾根にあがり、休憩。ここで沢のウェアから山のウェアに着替える。



濡れた沢靴やウェアをザックに入れるが、水を吸っているなのでザックは重い。地図を見ると尾根から大谷ヶ丸までまだ200メートルほど登らないといけない。

しかも、着替えている途中から雷が鳴り出す。沢登りの時は、いい天気だったのに。雨が降ってくるから先を急ごうと力を振り絞って、山頂をめざす。

13時49分、大谷ヶ丸登頂。雷がどんどん大きくなってきているので、登頂やったー！もなく、地図とコンパスで次の北峰を探す。アプリは原則禁止。

地図上では、北に向かって一旦下って登り、登りきったところが北峰になっている。しかし、めざす方向に歩いているといくつかのアップダウンがあり、北峰がここだと確信が持てない。地図上だと大谷ヶ丸と北峰はすぐ近くに見えるが結局、15分くらい歩いて北峰到着。





詰め

大谷ヶ丸山頂

Gさんから、こういうところの地図の読み方や距離感覚などを身につけてほしいと言われた。一回ごとの山行を大事にして経験から学ぶしかない。

北峰についたら、バリエーションで西尾根を渡って帰る。しかし、ここでいよいよ雨が降り出す。沢で濡れているので、体が濡れることに抵抗感はないが、地図読みがしづらくなった。GPSも使いながら尾根を間違えないように、下る。

この山は足元がゆるくて滑りやすい。そのためにストックも持ってきていたが、雨も降ってきたのでより慎重に下る。足の踏ん張りが効かないところで、ストックを使って、ブレーキをかけていたが、途中、バキッと折れてしまった。カーボン製のものだった。

沢登りもあるので軽い方がいいと思って、選択したが、失敗した。「カーボンは軽いけど弱いからダメ」と言われた。これも経験を通しての学びだった。

尾根を下るだけかと思っていたら、思った以上にアップダウンがある。雨は降り続けているし、時間も遅いので、帰路を急ぐ。しかし、体感的にかなり進んだ感覚はあっても、現在地を確認するとそんなに進んでいない。そんな繰り返しだった。

「沢は思った以上に体力を使う」とKさんに言われたので、それもあつたかもしれない。

後で自分のYAMAPの記録を見ても、走行距離は11キロくらいで、いつもより長く歩いたわけではない。

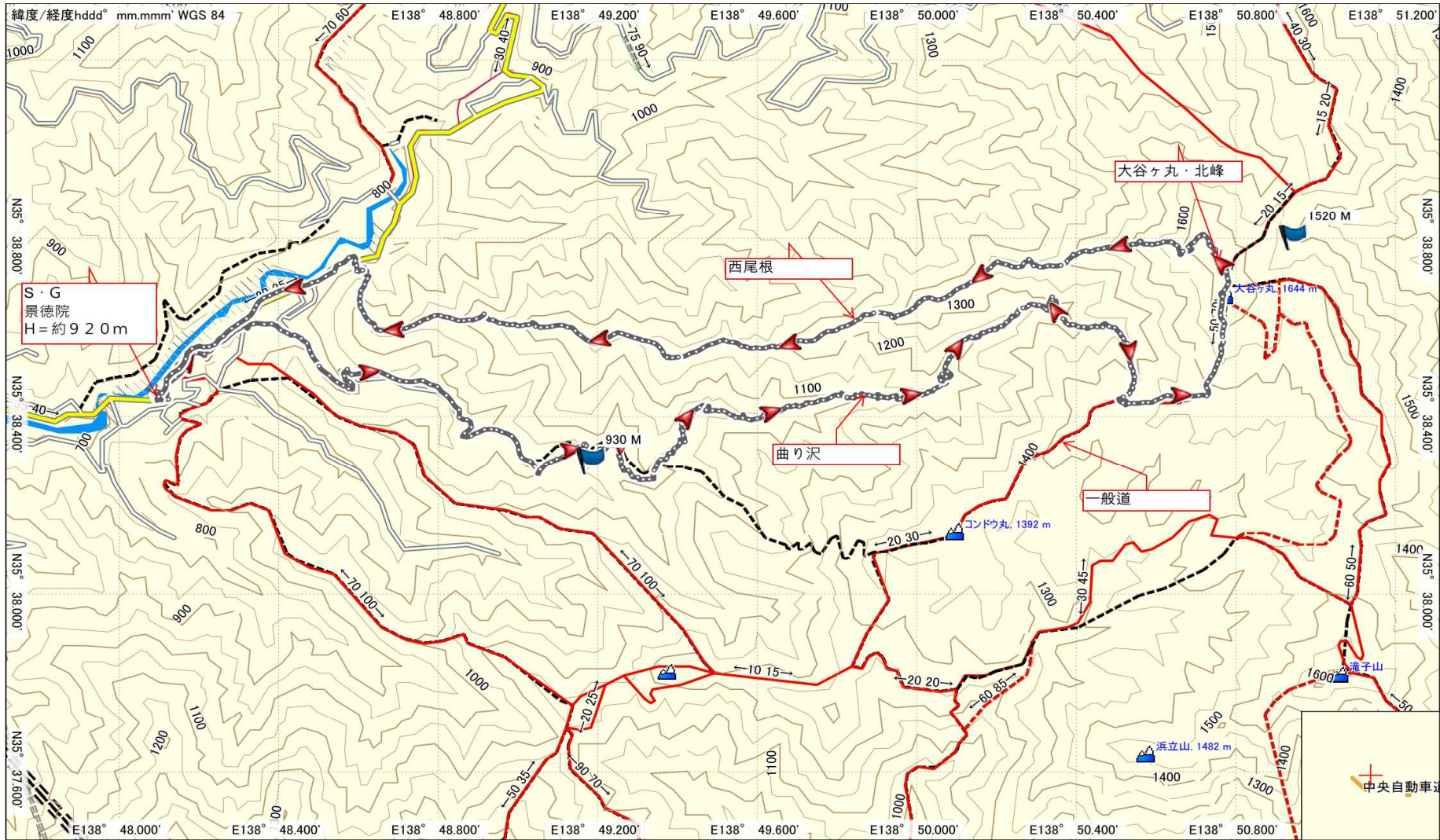
しかし、下山は長く疲れた。景德院に戻ってきたのが、薄暗くなった17時5分。雨に濡れて泥だらけのウェアを着替えて、腹ペコだったので近くの砥草（とくさ）庵で食事。

私の誕生日が8月18日だったので、今回は私の誕生日お祝い山行だと言っていた。物でもらうプレゼントより思い出に残るインパクトのある体験だった。

その他の記述（後藤）

1. 曲り沢は、標高約1270mで終わり、左岸の支流を上り、標高約1450mの縦走路に出る。ここは、私が昨年末事故を起こした尾根。場所は、コンドウ丸上の標高約1400mなので、事故現場検証は出来なかった。
2. 大谷ヶ丸北峰は、地図上では近距離感覚だが、実際は、かなり離れている。地図と実際の感覚違いを掴むのがポイントである。北峰には手製の標識がニッあった。
3. 西尾根の上部は急で大岩が点在する。直下で南西尾根に下り過ぎた。すぐ気が付き、北の正規尾根に修正した。雨・雷・暗雲で厳しかったが、全員でやり遂げたのは、大きな成果だった。
4. 温泉は未入で残念だったが、砥草庵は、主人がソフトな方で店もステキだった。



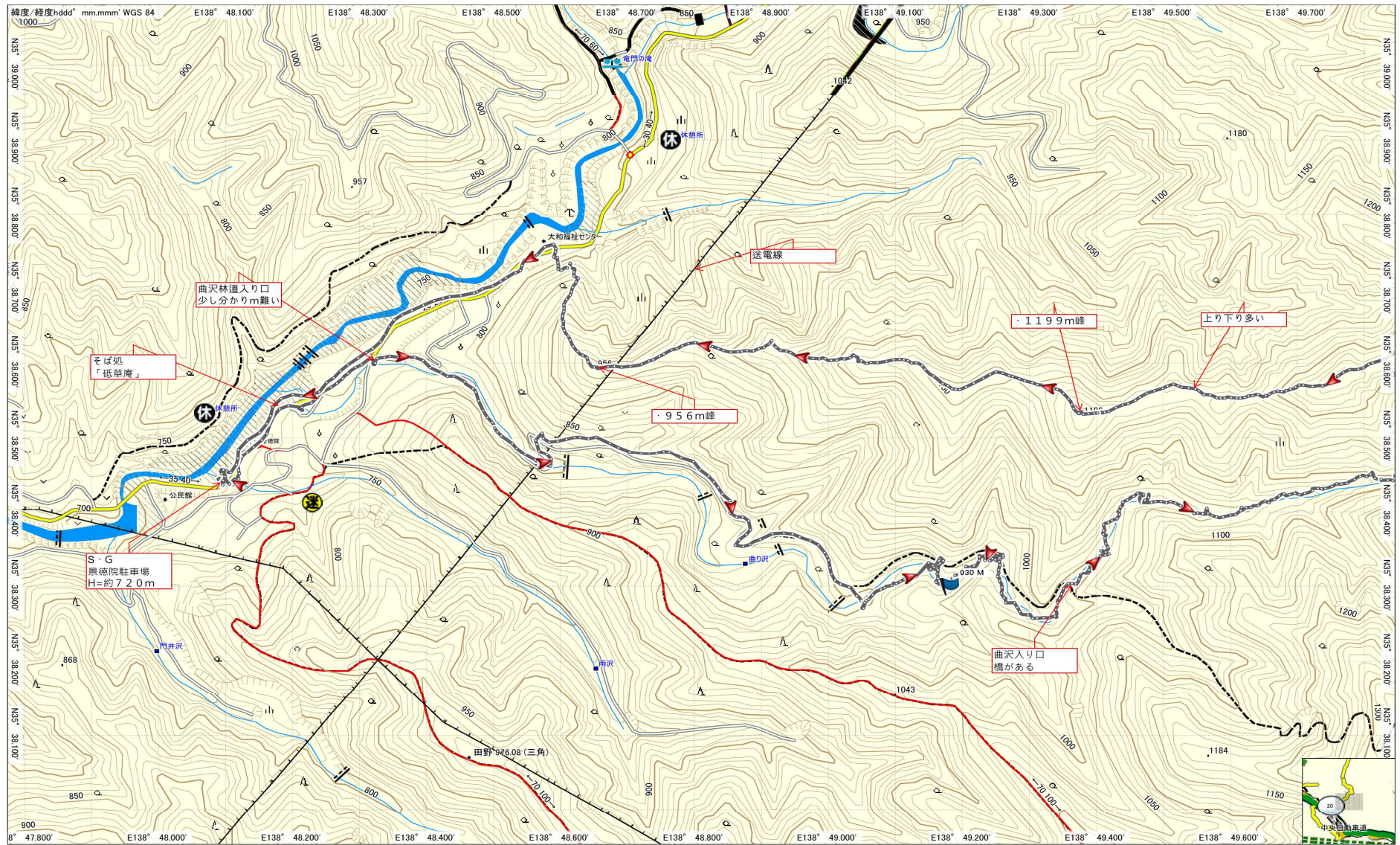


Japan Topo 10M Plus V3  
 CarvasMaple Co., Ltd 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2023/08/20 8:16:12

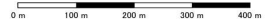
GARMIN





Japan Topo 10M Plus V3  
 © Garmin Ltd. 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2023/08/20 8:16:12



GARMIN





